

はじめに

過去3年間、全世界を混乱に導いたCOVID19のパンデミックが2022年末に至り、ついに終息すると予想される時点で、米中貿易紛争による覇権競争が激化し、ロシアによるウクライナ戦争は新冷戦時代を造成させた。そのことでグローバル経済と産業全般に景気低迷の懸念が増幅されるなど、困難が予想されている。

特に、主要先進国の保護貿易の強化や米国を中心としたグローバルサプライチェーン（GVC）の再編など、新しい国際秩序構築は、国内企業の経営環境に不確実性を加重させている。

最近のグローバル企業経営と産業界の核心課題は、気候変動に対応した脱炭素、環境、エネルギーなどを包括するESGであり、人工知能、ビッグデータ、モノのインターネット、3Dプリンタ、仮想現実、ロボット技術など産業を革新する第4次産業先導技術の確保が企業の成長と生存を左右するキーワードとして浮上している。このような革新的技術は新しい産業と市場を形成することもあるが、既存の製造業やサービス業など伝統産業に応用され、まったく新しい姿で既存産業を変化させる源泉技術としても働いている。

この変化の波は、国内企業にこれまで経験できなかったリスクと機会を同時に与えている。国内半導体産業と自動車産業における競争力はシステム半導体、電気自動車市場を通じて持続しており、二次電池、バイオ産業など新事業でも意味のある成果を創出している。また、K-ポップ、K-ゲームなどから始まり、最近のK-フード、K-シネマなど文化全般に拡大しているソフトパワーは、国内企業の世界市場進出を支援する原動力として期待を集めている。

一方、最近ICT技術を通じたDX（デジタル転換）により社会と産業が急速に変化し、産業間の境界が崩れ、融合技術力が重要な競争力の源泉となり、事業の核心軸として位置づけられ、隣接産業と異業種の理解と分析の必要性はむしろますます増えている。そのため様々な産業に対する信頼できる統計の重要性がさらに高まっている。このとは本書が1989年以降毎年発行されている理由でもある。

グローバル経済の不確実性にもかかわらず、新事業や未来事業の発掘は企業の宿命であり、データに基づく市場分析は見逃せない有効な手段といえる。本書は事業企画とマーケティング戦略の樹立に役立てるため、国内主要産業と市場に対する幅広い二次資料を最大限網羅して紹介してきている。

今後も本書は、新成長産業と未来産業に対する眺望を通じて、変化する産業構造を反映する多様な時系列統計を発掘、拡大していく計画である。これを通じて企業による情報の需要に応えることで企業の事業及び経営に少しでも役立つことを期待している。

2022年7月

デイコ産業研究所

